

福岡県連幹事長の樋口です。

まず、参院選の総括についてですが、参院選で、自民党が敗北した理由は様々あると思いますが、その原因の一つとなったのが、自民党の目玉政策である、給付金の制度設計について、そしてその広報の方法にあったと私は考えております。

石破総理は、給付金の意義について、現下の物価上昇に対応する為に、必要な方々に素早く、そして財源を傷つけないのは給付金だと訴えられておりました。

勿論、私も物価高対策として、減税よりも給付金の方が適切だと考えております。

ただ一つだけ理解できないのは、何故、所得制限を設けなかったのかということです。

先程述べましたように、総理は必要な方々に素早くと訴えられましたが、なにゆえに総理や私達がこの必要な方々の中に入るのでしょうか。

また、例えば年収一千万円を超えるような国民がどうして必要な方々になるのでしょうか。疑問です。私と同じように考えられた国民は多いと思います。

以上のことが、自民党の政策立案能力に不信感を持たれ、国民の信頼を失う原因になったと私は考えます。

次の給付金の広報についてですが、選挙期間中、様々な報道機関を通して、給付金の制度設計についての説明広告を目にしました。

最初のうちは良かったんですが、それを頻繁に目にするうちに、言い方は悪いですが、段々と、自民党は金で票を買っていると国民に思われても仕方ないという感覚になりました。この様な、品位に欠けると受け止められてもしょうがないような広報の在り方によって、国民が自民党を冷ややかに見ていた可能性を指摘します。

参院選の総括の最後に、選挙直前や選挙期間中の我党議員の品位に欠ける発言や、外国人政策について、他党の土俵に乗っかってしまい、対応に右往左往している様など、責任政党自民党の威厳が全く感じられませんでした。政策うんぬんというよりも、むしろこのような我党の状況が、選挙の根本的な敗因だったと私は考えております。

次に、今後の課題についてですが、石破総理の進退について言及することはいたしません。政治家の出处進退は、政治家自らが決めなければいけません。

特に、自民党議員はその教示を強く認識すべきだと思います。

選挙後、石破総理は続投の強い意志を示され、そのことは、何度も報道で耳にしました。ですが、石破総理の下で、国政選挙に2連敗した上での続投表明ですから、総理は並々ならぬ覚悟をお持ちのことだと思いますが、その覚悟が私には感じられません。

総理は「納得と共感」という言葉をよく使われますが、総理の続投について、国民は、党员・党友は、納得と共感を得られたとお考えでしょうか？

残念ながら、そのようなことにはなっていないと私は思います。

以上、率直に色々とお話ししましたことをお許しいただき、自民党が再び信頼される責任政党として再生していくことを多いに期待し、発言を終わります。 以上